

VoIP構築を東陽テクニカが強力に支援 PSQMとR値のサポートで音声品質の視覚化実現

VoIPの本格的な普及が進む中で、音声品質に対して客観的なデータ測定が求められている。そうした中、東陽テクニカでは、VoIPの国際的な品質基準にのっとり正確で安定した計測機器を提供し、高品質なVoIPソリューションを手がけるメーカーやSIなどを強力に支援している。

正確な数値が得られる『Abacus』

同社が提供する米SPIRENT Communications社の『Abacus』は、コールジェネレータに音声品質評価機能を付加した製品で、ITU-Tで定められたPSQMの規格にのっとり、正確で安定した測定結果が得られる点が大きな特長だ。このため、企業向けにVoIPの構築を行っているSIからの引き合いも強い。同社情報通信システムSPIRENT営業部セールス/マーケティングの小澤大輔氏は、「VoIPの音声品質評価では、実際に耳で確かめるだけでなく、客観的なデータがほしいという要望が高まっています。その際、PSQMの測定値の正確性が重要なポイントです。実際にお客様からは、同じ条件下で測定値にバラツキが生じるようなことがなく、非常に安定した数値が得られると評価をいただいています」と語る。



米net iQ社製「Chariot」

さらにAbacusの魅力は、もともとバルクコールジェネレータ/交換機シミュレータという位置付けから、小規模から大規模まで多種多様なインターフェースに柔軟に対応している点だ。音声だけでなく、FAXの送信試験も行え、米SPIRENT Communications社の他製品との組み合わせで、データと音声の混在環境でのシミュレーションも可能。今春には次世代規格のPESQに対応。秋にはイーサネットにも対応する計画で、IP電話関連のサポート機能を強化していく。

手軽なテストツール『Chariot』

一方、米net iQ社製の『Chariot』は、ネットワーク上のVoIPのパフォーマンスを測定するソフトウェア型のツールで、2台のPC間でVoIPの音声品質に大きく影響する遅延やパケットロスを計測。IP電話の番号取得の品質基準となるR値のパラメータを算出することが可能になり、最大で1万セッションまでエミュレートできる。特にVoIPを使ったアプリケーションの運用テストには最適で、そのテスト結果に応じて、ネットワークの帯域幅や回線数を増やすなどの対策が可能になる。

ユーザーの反響について、同社情報通信システムITマネジメント営業



東陽テクニカが販売する米SPIRENT Communications社の「Abacus」

部セールス/マーケティング課長の小野寺充氏は、「ソフトウェア製品なので、インハウスはもちろん、フィールドでも手軽にテストが行えると好評です。R値を測定できるツールとして、急速に売れ行きを伸ばしています。また、VoIPのみならず、VoIPワイヤレスやストリーミング系のシミュレーションが行える点も、大きな差別化ポイントです」と強調する。

近々、VoIPのマイグレーションに最適で詳細な品質レポートが出力できる「VoIP Assessor」と、VoIPの品質を常時モニターする「VoIP Manager」もリリースされる予定だ。東陽テクニカが提供する一連の計測ツール群を活用することで、VoIPに関する一貫したソリューションが展開できるようになる。

お問い合わせ先

株式会社東陽テクニカ
情報通信システムSPIRENT営業部
〒103-8284 東京都中央区八重洲1-1-6
TEL : 03-3279-0771
URL : <http://www.toyo.co.jp>
E-mail : zarak@toyo.co.jp